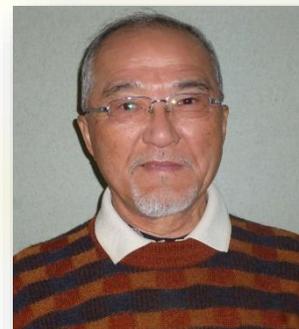


シドニー視察旅行記（3）

～ 首都キャンベラへ向かう幹線ハイウェイ ～

CNCP サポーター

NPO 法人 SLIM ジャパン 事務局長 **宮下 裕美**



2 日目は、最初の視察地として首都キャンベラを訪れることになった。「首都都市」として有名であるが、その視点での都市の成り立ちについては次回三井元子さんが投稿されることになっているので、私はシドニーから約 300km 離れたキャンベラまでの道路交通について記しておきたい。

1. オーストラリアの州構成と三大都市

オーストラリアは、New South Wales(NSW), Victoria(VIC), Queensland(QLD), West Australia(WA), South Australia(SA), Tasmania(TAS) の 6 州と、Australia Capital Territory(ACT: 首都特別地域), Northern Territory(NT) の 2 準州 からなっている。今回訪問のシドニーは NSW 州の州都で、人口 500 万人(2016 年 6 月現在)のオーストラリア最大の都市であり、NSW 州の北隣 QLD 州の州都ブリスベンと Pacific Highway(790km)で、また、西隣の VIC 州の州都メルボルンとは Hume Highway(840km)でそれぞれ結ばれている。今回の視察旅行はオーストラリアの道路事業とその維持管理について学ぼうとの趣旨であったので、この 2 大道路は見ておきたいところであったが、休日のハンターバレイのワイナリー訪問の時間調整がつかず、Pacific Highway はあきらめることになった。



今日訪問するオーストラリアの首都キャンベラは、NSW 州の中に飛び地のようにして設定された ACT の中にあり、Hume Highway でシドニーからは約 300 km、メルボルンからは約 600 km の距離である。

2. シドニー～キャンベラ間の道路交通

もう 30 年前のことである。1988(平成元)年 7 月の七夕の夜、熊谷組海外事業部豪州支店への転勤となった。その後 1993 年まで約 4 年半の駐在員生活を送ったが、当時の熊谷組はキャンベラの南、オーストラリアン・アルプスと呼ばれる山岳地帯(最高峰コジオスコは 2,228m)にある一大スキー場で、PPP 事業として“スキューブ”と称するトンネルを掘って、山岳鉄道を運営していたこともあり、その途上も含めて何回かキャンベラも訪れたことがある。

朝 7 時。ホテルに熊谷オーストラリアで手配してくれた Frontier Photographic Safaris という個人経営の観光案内会社のマイクロバスが迎えに来てくれた。運転手は、Mr. Craig Figtree (イチジクの木との意) という名のれっきとしたオージー(豪州人)だが、日本に長く住んでいたということで、日本語で案内してもらえというオマケもありがたかった。今日の同行者としては、先月この記に投稿された秦善寺氏と、昨年の 4 月から NSW 大学に研究生として留学中の神戸大学工学部准教授の秋田先生が現地参加され、10 人の日本人グループである。



旅路はシドニー市内から約 300 km、途中 2 カ所ほどで朝食と休憩を入れての片道 4 時間ほどかかる長距離ドライブである。シドニーを出て Hume Highway を走るが、写真にあるように多少の起伏はあるが、ユーカリの林と牧草地帯とが交互に現れるような退屈なドライブが続く。歴史的には、19 世紀初めから Great South Road として建設が進められ、約 100 年後の 1928 年に Hume Highway と名付けられて名実ともに NSW 州南部の主要道路となった。その後 1960 年代に入って、その複々線化やバイパスの建設など毎年数百億円レベルの投資が続けられ、2013 年に現在の幹線道路が整備された。構造的には片側 3 車線を原則とし、中央には幅数十メートルの中央分離帯を有するので、道路全体では優に幅 100m を超えてブッシュファイヤーの拡大低減にも役立っている。



そんな Hume Highway を 2/3 ほど進み Goulburn を過ぎ、左へ別れて Federal Highway に入ると間もなく広大な草地が目に入って来る。Gorge Lake と呼ばれる湖で、地図で見ると琵琶湖位の大きさに水色で示されている。いつもキャンベラに来る度に見る光景だが、右写真に見るように湛水しているのを見たことがない。牛がのんびりと草を食べているのを見ながら首都キャンベラが近いことを知る。遠くの小高い山の上には、数えられないほどの風力発電風車がかすかに見える。ウランの産出、輸出国でありながら原子力発電を認めていない国の挑戦を見る思いがした。

3. キャンベラのまち

ほぼ 4 時間近く走ったことになるが、30 年前の Federal Highway は道路幅も狭く、時折カンガルー見ることもあり、ウォンバットの無残な屍があつたりもしたが、今回はカンガルーバーを装備した車を見かけることも少なくなっていた。キャンベラ市内に入り相変わらず車も人通りも少ない道路を通過して、Lake Burley Griffin という人工湖の噴水の横に新しく建設されたインフォメーションセンターに寄ったが、立体模型地図なども展示され、ずいぶん分かりやすくなっていた。その地図によると国会議事堂を中心に 3 本の放射線が基軸になっている。それに結び付けてのいくつかのミニ放射線道路が配置されて、幾何学的に都市の形状がデザインされており、いかにも人工都市との趣が強い。

そんな首都都市の状況は次回に譲るとして、いかにもオーストラリアらしいエピソードに触れておきたい。新しい国会議事堂の地下駐車場を探していて通りかかったパトカーに入り口を訊ねたところ、“ついてこい” とばかりに駐車場の中まで先導してくれて、ちょっとした VIP の思いを味わうことができた。そのあと戦争記念館や Mt. Ainslie という小高い丘に登りキャンベラの街を一望した。標高では 850m というから、キャンベラ自体はほぼ 700m という高地に位置することになる。冬には氷点下も経験することがあるようだ。その山頂も、もちろん上述の基軸の延長にある。



それらを見終えてキャンベラからシドニーに向かったのは午後 5 時を回っていただろうか。キャンベラを離れてしばらくすると雲行きが怪しくなり、雨が激しく降り出した。はるかシドニー方向には一部青空が垣間見え、オーストラリアのこの季節に特有のシャワーと思っていたが、そのうちに雨が雷(ヒョウ)に変わり出し、フロントガラスやボディに当たる音が聞こえてくる。幸い車に傷が着くほどの大きさではないが、30 分くらい続いたであろうか。シドニーとキャンベラの中ほどにある Bowral という町の Scottish Arm というそれなりのレストランに着いた。軽くとのつもりで入ったが、どうしてもビーフ料理に目が行き、しかも昨日に続いて「トマホーク」に目が止まる。結局は 1 時間を優に超える宴会となり、今夜も一人当たり 50A\$ を超える夕食となった。

朝 7 時にホテルを出て、戻ってきたのは午後 11 時前と今日も強行軍であった。